

ロシア語専攻

ロシア語圏の社会、歴史、文化、芸術、そして言語に大いに関心を持って、入学してきてほしい。何よりも、様々なことに好奇心を持ち、自分で考えて、将来専門家として歩む自覚を持っている学生を求めます。



エルミターージュ美術館

日本海を越えれば、そこにはもう広大なロシアの大地が広がっています。歴史的、経済的、政治的にも深い関係にあるロシアと日本。この二つの国が、これからの世界で互いに脅かすことなく理解し合い、助け合いながら共に発展していくことは、双方の国にとって、そして世界全体にとっても重要な課題となっています。

また昨今は、最重要な経済パートナーとして日本の産業界はロシアへの関心を高めており、政治、経済、行政等、様々な分野で、ロシア語能力を持つ人材が広く求められており、卒業生の活躍の場はどんどん広がっています。

ロシア語専攻では、外国語学部でもいち早く統一教材を用いた、総合授業システムを採用しています。総合授業システムとは、話す、聞く、書く、読むというロシア語の4技能を総合的に学習し、全体として、学習言語による実際の活動を可能にする異文化コミュニケーション・行動能力を高めることを目指すシステムです。クラスは少人数制で、学年ごとの「到達度目標」に従って授業は進められます。

また、ロシア語能力検定試験を導入し、客観的な評価基準による単位認定を行っています。

後期課程(3・4年生)では、ロシアの文学・歴史・経済・言語といった専門分野の研究に加え、ビジネスロシア語などの高度なロシア語運用能力を育成する授業も開講されており、将来、ロシア語を使った専門職に就くための準備も積極的におこなっています。

みなさんも私たちと共に勉強して、「ロシア」という未知の扉をたたいてみませんか？



日露首脳会談2013年4月29日、モスクワ(ロイター)

「ズドラーストヴィチュェ！」

ЗДРАВСТВУЙТЕ!

学生の声



4年 岩田 育実

日本人はロシアにどんなイメージを持っているのでしょうか。ロシアを一言で表すならば、私は「近くて遠い国」だと思います。新潟から極東地域への直行便があり、北海道北部ではキリル文字で表記された看板があるほど、実はロシアは身近な国なのですが、ロシアの文化に興味がある人や訪れたことのある人は残念ながら多くはありません。同じ隣国である中国や韓国に比べ、ロシアに対する日本人のこの興味関心の差はいったい何なのか、という疑問は私がロシア語専攻を選んだ理由の一つでもあります。

ロシア語は世界一難しいと言われていています。まずはキリル文字を覚えるところから始まり、名詞の性や格変化といった日本語にはない概念に苦しめられ、文法も易しくはありません。しかしロシア語はとても興味深く、音も美しい言語です。私自身も最初は苦労しましたが、今ではロシア語を選んで良かったと思っています。二年生の時モスクワで一か月研修し、先日は舞鶴に寄港したロシア海軍と日本の海上自衛隊との交流の通訳ボランティアを行いました。これらの経験から、ロシア人特有の人間性や温かさ、ロシア人の文化や芸術、文学に対する感覚の違いを学びました。

マトリョーシカ、ロシア料理、文字、バレエ、ソ連などきっかけはなんでも構いません。世界一難しく、そして奥深いロシア語を是非学んでみてください。大阪大学ロシア語専攻はみなさんに多くのチャンスを提供してくれることでしょう。



留学体験記



4年 村上 愛理

私はロシア語専攻の魅力留学とロシア語劇の側面からお伝えします。

まず留学についてです。ロシア語科は交換留学の枠が比較的多く、私費留学でもそんなに費用は掛からないので多くの人が留学に行きます。私は2年生の夏にプログラムで1ヵ月モスクワに、3~4年生の間は交換留学で10ヵ月サンクトペテルブルクに行きました。ペテルブルクの留学では、長くて暗い冬(15時半とかに日が沈む!)のせいで心身共にしんどかったですが、学校の勉強だけでなく積極的に外での活動にも参加して自分のコミュニティを見つけ、友人との交流を楽しみました。例えば下の写真のように、自分の得意な書道のワークショップを開いて、たくさんのロシアの人々に実際に日本の文化に触れてもらったりもしました。芸術の街なので、街並み散策や劇場や美術館に通うなど、文化的にも充実した留学生活も送れます。

次に語劇についてです。外国語学部には語劇祭という伝統的な祭があり、各専攻語がそれぞれの言語で劇を演じます。ロシア語科は特に力を入れていて、本番近くは練習も毎日ありますが、ロシア語の上達につながるだけでなく、ロシアを理解するうえで欠かせない芸術・特に演劇を体験することができます。劇の練習を通して、専攻語の先輩後輩がつながれることも魅力です。

皆さんもロシア語専攻に来て、勉強だけでなくいろいろな体験をしてロシアについて理解を深め、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

